

日本社会 と ポジショナリティ

— 沖縄と日本、ジェンダー、外国人と多文化化とポジショナリティ。日本と韓国の意識比較 —

「ポジショナリティ」とは、集団間に存在する力関係とそれがもたらす不平等や格差の状態が個人間の関係やコミュニケーションに影響したり、くり返されたりする様子を分析する視点です。また、その力関係によってそれぞれの集団に生じる利害や、問題解決に向けて個人が負う責任をも明らかにします。

シンポジウムでは、「ポジショナリティ」の視点から、沖縄における軍事基地問題や日本と沖縄との権力関係、多文化社会への認識や政治意識、ジェンダーや移民女性などの問題について報告を行います。これらの問題について、シンポジウムをとおして、みなさんと議論や意見交流を深めていきたいと考えています。

基調報告 ポジショナリティを検討する意義

13:00ごろ

池田緑

[大妻女子大学]

第一部 日本社会におけるポジショナリティの諸相

13:30ごろ

01 外国人に対する意識に関する日韓比較

定松文

[静岡大学]

02 社会的不平等の認識と日常的不平等の感受：日韓調査から

喜多加実代

[福岡教育大学]

03 「沖縄大好き」＝「沖縄憎悪」のポジショナリティ的分析

知念ウシ

[むめかちやー・沖縄国際大学非常勤講師]

第二部 ジェンダーとポジショナリティ

15:15ごろ

01 ジェンダーにおける言説的優位性

江原由美子

[大妻女子大学]

02 「移住女性」を捉えきれないフェミニズムのポジショナリティ

長谷部美佳

[明治学院大学]

第三部 総合討論

16:25ごろ

司会 総合・第一部 高橋哲哉 [東京大学]

第二部 小川真理子 [東京大学]

日時

2025年 12月21日(日) 13:00～17:00 (12:30開場)

会場

大妻女子大学 千代田キャンパス H113教室（H棟1階）

主催：ポジショナリティ研究会

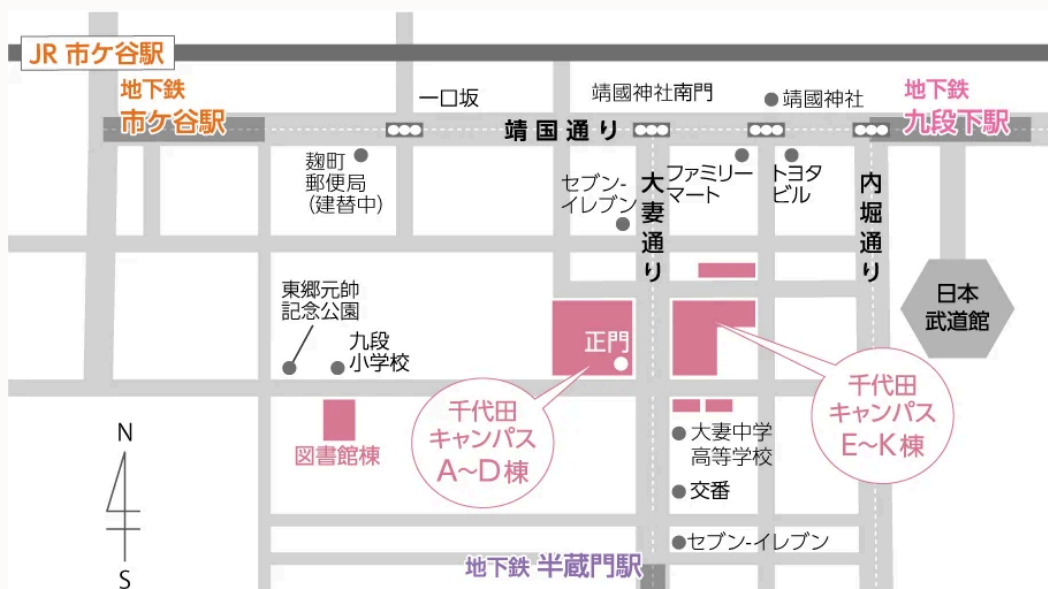
本シンポジウムは、ポジショナリティ研究会の研究活動の一環として、研究成果を社会に還元することを目的としております。本研究会は、日本学術振興会科学研究費助成事業の助成を受け研究活動を行っております。（基盤研究（B）「経験的概念としての「ポジショナリティ」の発展的研究」（課題番号：21H00774・23K20644、研究代表者・池田緑））

問い合わせ：positionalitysympo2025@googlegroups.com

アクセスガイド

大妻女子大学 千代田キャンパス

- ・ JR総武線「市ヶ谷駅」下車 徒歩10分
- ・ 都営新宿線 東京メトロ有楽町線・南北線
- ・ 「市ヶ谷駅」下車（A3出口） 徒歩7分
- ・ 東京メトロ半蔵門線「半蔵門駅」下車（5番出口） 徒歩5分
- ・ 東京メトロ東西線「九段下駅」下車（2番出口） 徒歩12分



キャンパスマップ

H棟1階 113号室

